

ネパールのフェアトレードNGO

サナハスタカラ ニュースレター Vol.6 2011年4月号

パシュミナ生産者へのインタビュー： Dhundi Prasad Bhattachan さん



ドウンディ さん(57歳)は、20年前にパシュミナの事業を始め、30人の従業員へ雇用を提供し続けています。その半数は女性です。ドウンディ さんは、カトマンズのラビバーワンという場所で「Sheree Mahila Uttan Pashmina Udhog」という名前で、パシュミナ製品を生産してきました。そして、過去21年間、変わらずその品質を維持してこれたことを、とても嬉しく思っています。

サナハスタカラは18年前から、彼の製品を取り扱ってきました。彼は、1995年にサナハスタカラから、パシュミナ製品の品質と確実な納期を守った供給に対し表彰を受けました。また、サナハスタカラの20周年の祝典でも報奨されました。

サナハスタカラは、ドウンディ さんの経験を共有し、パシュミナ産業についてより多くを知るために、彼にインタビューをしました。

1. なぜパシュミナの事業を始めたのですか？

最初、私は食料品の事業から始め、その後、木製品とハーブの事業を行いました。どの事業も上手いかず、私は挫折を味わいました。その時、「Dhaulagiri Pashmina」のマネージャーと出会い、彼に奮起され私はパシュミナの事業を始めました。彼はまた、財政的にも私を助けてくれました。タメルにあった彼のお店で、私の製品を売ってくれたのです。

2. パシュミナの製造工程を教えてください。

ネパールのパシュミナの織り糸は、ヒマラヤ地方の山々に住むシロイワヤギから得られます。

最初に毛糸を集め、その後『charka』という紡ぎ車を使って糸を作ります。そして、顧客の要望に合わせてデザインし、織り、様々な色合いに染め、市場に出る前に、最終の手触りになるよう仕上げます。

3. ネパールでのパシュミナ市場はどうか？

最初、パシュミナは世界にあまり知られておらず、また高価格のために、購入する人は殆どいませんでした。20 世紀に、エリザベス女王がネパールのパシュミナを身に着けている写真が西洋の新聞に載ってから、ネパール製パシュミナの海外市場は盛況になりました。しかし、貿易業者がウールとレーヨン素材を混ぜ、偽物のパシュミナ製品を作り始めたために、パシュミナの品質はその品位を下げ、パシュミナの市場も落ち込んでしまいました。しかし、パシュミナの市場は近頃拡大していますし、また、私のように高品質なものを作っている生産者は、そのような事業の障害に遭わずに済んでいます。

4. 海外におけるネパール製パシュミナ需要の、主な理由は何だと思えますか？

高価値・高品質のハンドメイド製品であることが、海外でネパールのパシュミナ需要が高まっている理由だと思います。さらに商標の「Chyangra Pashmina」は、今や40ヶ国以上で登録されるまでに成長しました。これこそが、ネパール製パシュミナが世界中で有名になった理由です。

5. サナハスタカラと仕事をするということについてどう思いますか？また、それはどのように事業の助けになっていますか？

サナハスタカラと仕事をする機会を得られたことは、私にとって非常に大きなチャンスですし、サナハスタカラはとてもフレンドリーで協力的です。自分の家族と仕事をしているような気持ちです。またサナハスタカラのおかげで、定期的に仕事を得られますし、製品を国際市場に送り出すことができます。サナハスタカラのサポートがなければ、私が過去にしていた他の事業のように、パシュミナ事業も失敗に終わっていたことでしょう。

サナハスタカラのおかげで、海外のバイヤーと仕事をする機会を得ました。また、私の仕事場に海外から沢山の方々が訪ねてきます。このように、サナハスタカラは私の事業の拡大してくれました。

6. 最近、サナハスタカラは、Sustainable Fair Trade Management System (SFTMS: 持続的フェアトレード経営システム)のもとで、あなたの生産ユニットのベースライン評価を行い、改良を勧めました。改良をいつ始める予定ですか？

サナハスタカラによる生産ユニットのベースライン評価は、非常に役立っています。市場の需要に合わせて前進していくのに大変助けになるでしょう。我々は今、サナハスタカラが勧める改良に取り掛かっているところです。すぐに業務は改良されるでしょう。

7. かつて、パシュミナ事業は品質の悪い糸の使用によって大きなダメージを受けましたが、あなたは使用するパシュミナ糸の品質をどのように保証していますか？

第一に、我々は仕入れ業者に高品質な糸を要求しています。そして、品質チェックや試験所でのテストを実施してきました。これにより、パシュミナの純度は 97%と継続的に証明されていますし、また日本で行ったテストでは 99.5%と認定されています。

8. 最後に伝えたいことはありますか？

どんなビジネスも、成功のためには、技術とともに市場もまた必要です。ですから、サナハスタカラには、我々のように自分自身では市場を拡大できない生産者に対し、手工芸品のマーケティングをこれからもお願いしたいです。最後に、サナハスタカラの継続的なサポートに感謝の意を伝えたいです。



ネパールのパシュミナについて知ろう

歴史:

「パシュミナ」という言葉は羊毛という意味のペルシャ語に由来していて、西洋では「カシミア・ウール」として一般的です。いつネパールのパシュミナが使われ始めたのか、という記録は残っていませんが、ネパールでのパシュミナの起源は遠く昔に遡ります。それは、人々が楽に動け、暖をとるために、この布を織ることに依存していた頃のことです。

パシュミナを復活させた功績は我々の祖先にあります。彼/彼女らは技術を磨き、パシュミナを95%の純度までに取り戻し、また、ネパールの技術の継承のように、何世代にもわたり受け継がれてきた熟練さを身に付けました。

この贅沢な布に使われる糸は、「Chyangra」と呼ばれるヒマラヤに住むシロイワヤギの下腹からとれます。このヤギは、チベット高原とネパールの高地に生息しています。厳しい天候を生き抜くため、このヤギには、非常に独特な細く短い毛が、内側に生えています。これは、ヤギにとって厳しい冬の最高の防寒となるのです。このような気候の地域に住む人々は、この糸が自分たちの体を暖め快適に保つのに非常に有効であると気づきました。このようにして、今日有名であるパシュミナは、存在するところとなったのです。

製造工程:

パシュミナはネパールの伝統的で独特な製品であり、ネパールは世界中にパシュミナ製品で良く知られています。パシュミナ製品は山に住むシロイワヤギからとれる毛を使って、ハンドメイドで作られます。

ヤギからできる糸は、手回しの糸車、「チャルカ」を使って紡がれます。織りの工程は、やる気と忍耐を要します。また、世代を超えて引き継がれる技術です。

パシュミナを作るステップは次の通りです。

1. 糸集め
2. 糸紡ぎ
3. 織り
4. 縁飾り縫いとデザイン
5. 染色
6. ラベル付けと包装

1. 糸集め

最初に、「Chyangra」(シロイワヤギ)から毛糸が集められます。この毛糸集めは、春に行われます。柔らかく手触りのよいパシュミナ毛糸を分ける作業は、毛糸集めの直後から始まります。というのも、集められた毛糸にはヤギの他の毛も混ざっているからです。

2. 糸紡ぎ

このように集められたパシュミナ毛糸は、「チャルカ」として地元で知られる糸車を使って、手で紡がれます。糸紡ぎの前に、素材を引き伸ばし、汚れを取り除いて綺麗にし、柔らかくするために2、3日間、米を混ぜた水に浸します。手紡ぎは、非常に難しい仕事であり、重労働で忍耐が必要です。



3. 織り

パシュミナ糸はとても繊細なため、電力織機の代わりに手織りの機(はた)が使われます。しかし、手織りは時間がとてもかかる作業です。細くて強いシルクの縦糸に、シャトルという道具を使って、柔らかいパシュミナ糸を通して、織っていきます。パシュミナショールを織る作業は時間がとてもかかります。また、パシュミナの製品によってそれぞれ異なる織り機が必要です。



4. 縁飾り縫いとデザイン

縁飾り縫いとデザインは、パシュミナショールを作る工程で最も興味深い作業です。なぜなら、この作業によってパシュミナ製品に豪華さが加わるからです。この過程は、創造性を必要としますし、また繊細な作業です。熟練したプロが、ひとつのパシュミナ製品に縁飾り縫いとデザインをするのに、何時間もかかります。



5. 染色

染色は、手作業で個々の製品ごとに行われ、とてつもない忍耐と経験が必要です。そうでなければ、染色を均一にすることはできません。金属とアゾを使わない、完全に生態系に優しい染色のみが、パシュミナ製品に使用されます。染色は、沸騰するより少しだけ低い水温で1時間近く行われます。パシュミナ毛糸は、非常に吸収性が高いので、簡単かつ深く染めることができます。



6. ラベル付けと包装

製品は染色の後、乾かされ、低温でしっかりとアイロンをされ、顧客の注文ごとにラベル付けされます。ラベルには、ブランドの情報と、パシュミナとシルクの割合が書かれています。そして、生産会社の名前とともに包装され、市場に送り出されます。



このように、大変な全作業と忍耐によって、素晴らしいパシュミナ製品は作られます。パシュミナ製品づくりは、骨の折れる、芸術的で創造的な、時間のかかる工程です。そのためパシュミナ製品の品質と価格は、ほかの製品よりも高く、他の衣服や繊維とは比べ物になりません。



最近の サナハスタカラ のコミュニティ開発と 生産者支援について

- ◆ 筋ジストロフィーの子どものケアのための施設（Muscular Dystrophy Child Care Society Bhaktapur）への支援を行いました。
- ◆ 昨年、ネパール東部、Sankhuwasabha 地方の数人のニット生産者が、大雨による地すべりで家を失いました。サナハスタカラは、Allo cloth Production Club を通じて、一時的なシェルターを建てるための資金を支援し、この生産者達に即時の救援を行いました。
- ◆ 2010 年のフェアトレードデイの際、サナハスタカラは、SFTMS のベースライン評価基準がネパール語で書かれた、ロクタ紙でできたノートを作って、配りました。